

「経口胆道鏡による胆道病変診断の有用性に関する後方視的集積研究」 のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年5月9日～2027年3月31日

〔研究課題〕

超音波内視鏡下胆道ドレナージ施行時における各種デバイスの有用性に関する後ろ向き比較研究

〔研究目的〕

本研究の目的は、超音波内視鏡下胆道ドレナージ施行時における各種デバイスの特性と適応を明確化し、患者個々の状況に応じた最適なデバイス選択を可能にすることです。

〔研究意義〕

超音波内視鏡を応用した手技として超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ(EUS-guided biliary drainage: EUS-BD)があり、良好な治療成績が報告されています。しかしながら、各種デバイス(穿刺針、ガイドワイヤー、拡張デバイス、ステント)の選択基準や、患者背景因子との関連についての詳細な検討は十分になされていません。特に、デバイスの特性と臨床効果の関連、患者の解剖学的特徴や原疾患によるデバイス選択の最適化については、さらなる検討が必要です。

本研究は、超音波内視鏡下胆道ドレナージ施行時における各種デバイスの特性と適応を明確化し、患者個々の状況に応じた最適なデバイス選択を可能にすることを目的としています。これにより、手技の成功率向上、合併症の低減、治療時間の短縮が期待されます。

〔対象・研究方法〕

研究は、2018年7月～2024年7月の期間に超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージを行った患者様を対象とします。個人情報が出漏りするしないよう、患者個人を同定できないようにコード化した後に登録します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。データの管理、保管は厳重に行い、研究終了後にデータおよび資料は倫理委員会事務局に提出され帝京大学臨床研究センターにて10年間保管後にすべて廃棄します。

対象となる患者様あるいはご家族で、患者様の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:土井 晋平 (教授)

研究分担者:渡邊 彩子 (助手)

所属:帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科

住所:〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1 TEL:044-844-3333 (代表)